

バーチャルな音楽環境

もともと楽器の原理は【吹く】【擦る】【打つ】【はじく】という4つの動作で振動体に直接エネルギーを加えることで鳴らすのが基本です。

【吹く】【擦る】【打つ】【はじく】という4つの動作で鳴らす振動体は、木片、金属片、弦、管、棒、器、皮、膜、弁等でそれぞれの材質により固有の高さや大きさ、持続時間、音色を持っています。これらの材料の殆どが【天然素材】の延長上にあるか日常生活にかかわりのあるものが殆どであり、その性質を特化して楽器モデルが完成したのです。竹の尺八も塩ビ管の尺八も名人にかかれれば同じ音がするらしいのですが、何故かみんな竹にこだわります。ピアノの鍵盤もかつては象牙が主流でしたがワシントン条約のために今はアクリルが主流となりました。オーボエは紫檀や黒檀のような材料で作られますがもう稀少材料となっています。お琴の弦もカイコが紡ぐ生糸ではなくテトロンなどの化学繊維になっています。ギターのカットはナイロンが主流となってかえって音が良くなりました。

自然な材料から作られた楽器モデルは時代が進むにつれ環境の変化もあり、同じ材料で作る僅かな名工に頼っていたのでは量産もかなわず、次第に加工や量産しやすい材質に変わって来たのです。その結果「量産モデル」に起こりがちな均質化や簡略化がおこり、演奏する人間の層も大衆化されて来ました。カラオケが歌を「歌手」から取り上げ聴くものから「誰もが歌手のように歌う」アイドル路線に変えたように、操作の難しい楽器を操る名人芸的な演奏家の音楽を一般人が奪って来たのです。そして遂に鍵盤やマウスというスイッチを【押す】だけで楽器が演奏できるようになりました。もはや振動体に直接触れることのないバーチャルな楽器がハイテクにより出現したのです。

また、「生演奏」だけが音楽を鑑賞する機会だったのをエジソンの蝋管がヒントになり、録音された「レコード」を誰でもが鑑賞出来るようになりました。エジソンが登場するまでの音楽家はすべて一過性の演奏のために作曲し演奏したのです。演奏される場所や対象は予め想定されており、満員電車や走る車の中までは考えていなかったのです。しかし、今ではむしろそういう移動体の中で時間つぶしに聴く音楽がいわゆる音楽の大きな部分になってきました。そこで必要とされたのは次々と新しい音楽を供給するシステムです。

タレントやアーティストと称する新しいアウトレットから次々と音楽を供給するシステムが今や音楽産業なる新しいジャンルを作ってしまったのです。楽器産業はメーカーですが音楽産業は格好良く言えばメディア産業ですが現状は風俗業です。

ここでちょっとテストをしてみましょう。以下の人名を知っているかどうかです。

- ①バッハ、パレストリーナ、モーツァルト、ショパン、パデレフスキー、ヒンデミット、ジョンケージ
- ②マリオデルモナコ、マリアカラス、ホロビッツ、ケンプ、ブーニン、
- ③ガーシュイン、デュークエリントン、カウントベシー、ジョージシャーリング、
- ④フジ子ヘミング、セシリアバルトリー、久石譲、テリムスカ、ユンディリー
- ⑤平原綾香、湯川潮音、奥井亜紀、森山直太郎、土岐麻子、平松愛理、山崎まさよし、松崎しげる
- ⑥マリノジェラード、トマスポーロ、シャピロリンダ
- ⑦森あずさ、飛戸彩芳、河合真奈美、箴島愛恵

いかがですか？さすが上級編は難しいでしょう？でもご安心下さい。⑥は私の創作で、⑦は私の大学の一年生で愛媛県出身の人たちです。知っていたらむしろおかしいのです。昔、歴史のことなら何でも知っているという人に「ラーテスカのどうめい文」とは何かと尋ねると、「うーん、それは確かナポレオンがラーテスカの丘でイタリアと同盟を結んだ時のもんじゃ」と答えたのによく似ています。逆に読めば文明堂のカステラなんです、知らないとは言えないつらいものを感じます。今の若者は「知らない」というと馬鹿ではなく「遅れてる」と言われるのが怖いのです。

知らないと言わせない宇多田ヒカルのデビューの時のようにメディア産業は一人の才能有る音楽家が熟成するのを待たずに最初から熟成済みのラベルを貼って次々と送り込んできます。このメディアによる情報環境汚染は若者のみならず音楽をとりまくあらゆる世界にとって深刻な状況を招くでしょう。演奏者と同じ空間を共有しないスイッチ一つで出現するバーチャルな音楽環境とそのスイッチの向こうにある怪物について今年は考えたいと思っています。胸を張って「知らない」と言える権利のために。